

絶滅からの再生か！

「ナガボテンツキの移植プロジェクト」について

3月8日土曜日に、加古川の河口部にてナガボテンツキを移植しました。

当日は、天候にも恵まれ、愛好家約20人が参加、「うまく育つよう」願いをこめ、移植作業が行われました。

ナガボテンツキとは、本州から九州にかけて、海辺や河口・ため池に生育するテンツキに似た植物です。1995年、加古川において県内初の発見以来、その後の調査では、確認されていません。

1996年、その貴重な植物を絶滅から救うため、兵庫県立「人と自然の博物館」服部 保教授は「ジーンファーム」に株を移植し、栽培株を増やすのに成功。このたび、服部教授の御指導のもと10株程度を、加古川に試験的に移植することとしました。



また、服部先生よりフジバカマのご提供もあり、同時に移植を行いました

今後は、生育状況についてモニタリングを行い、事務所のホームページにて、定期的に報告を行います。



フジバカマ